

令和6年3月25日

岩手県知事  
達増拓也殿

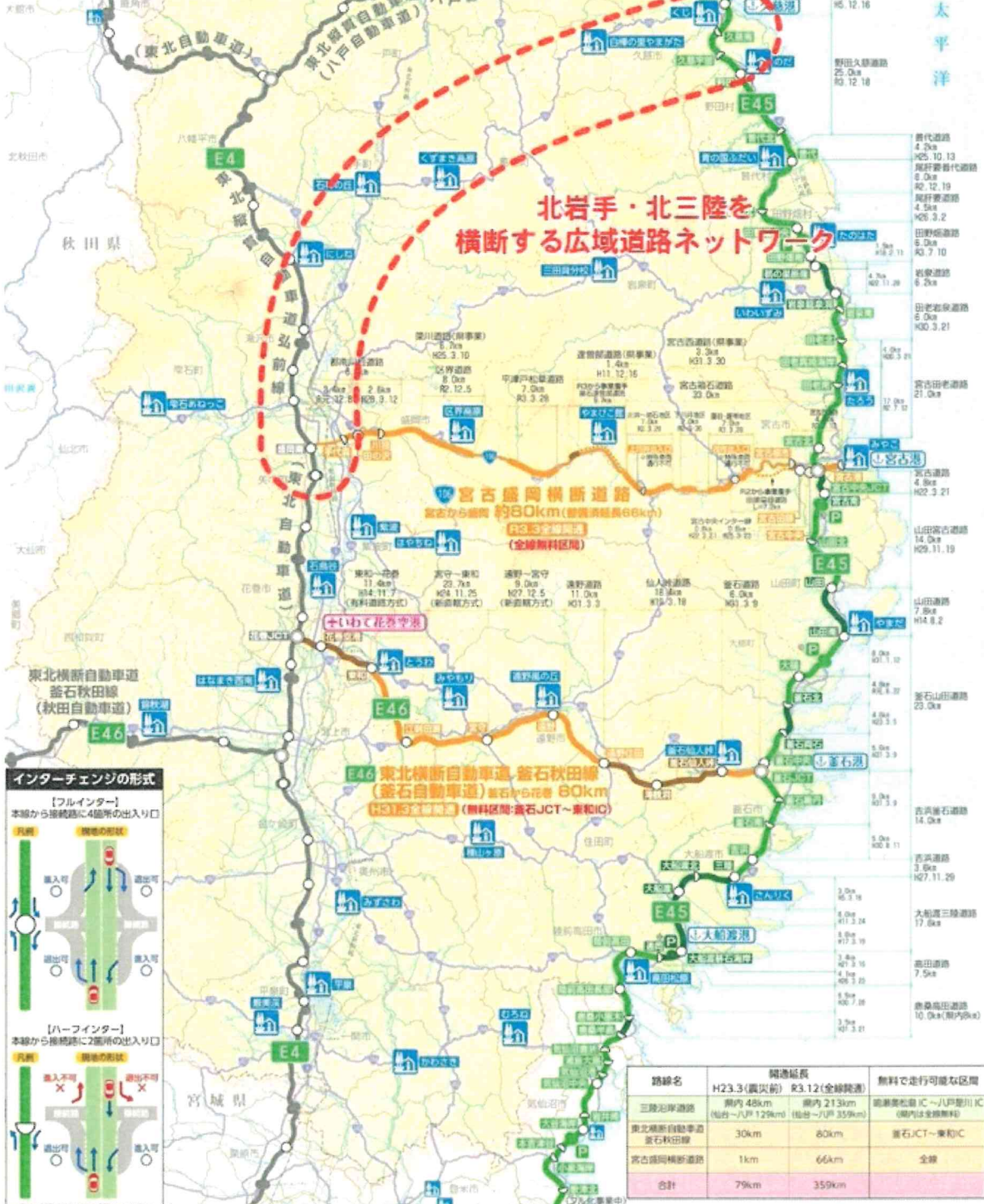
# 要望書





# いわての復興道路

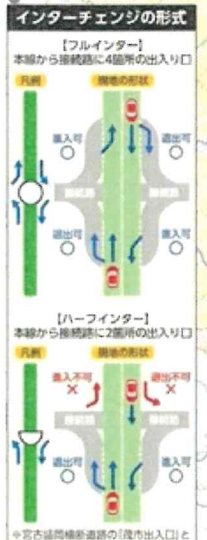
- 凡 例**
- 東日本大震災前に開通
  - 震災後に開通
  - 東日本大震災前に開通
  - 震災後に開通
  - 既設活用区間
  - 上記以外の高速道路
  - 復興計画 道の駅
  - 復興計画 インターチェンジ
  - 復興計画 料金ゲート
  - 復興計画 S・A・P・A
  - 復興計画 三陸自動車道
  - 復興計画 主要地方道
  - 復興計画 一般国道
  - 復興計画 一般県道
  - 復興計画 道の駅
  - 復興計画 インターチェンジ
  - 復興計画 料金ゲート
  - 復興計画 ジャンクション
  - 復興計画 S・A・P・A
  - 復興計画 三陸自動車道



## 北岩手・北三陸を横断する広域道路ネットワーク

宮古三陸間横断道路  
宮古から三陸 約80km (普通道延長66km)  
【全線無料区間】

E46 東北横断自動車道 釜石秋田線  
釜石から三陸 約80km  
【全線無料区間】



路線名	開通延長	無料で走行可能な区間
三陸沿岸道路	H23.3(震災前) R3.12(全線開通) 管内 48km (他管~八戸 129km) 管内 213km (他管~八戸 359km)	新巻IC~八戸IC (管内は全線無料)
東北横断自動車道 釜石秋田線	30km 80km	釜石JCT~東和IC
宮古三陸間横断道路	1km 66km	全線
合計	79km 359km	

E45 三陸沿岸道路 仙台から八戸 359km (管内 213km) R3 12月全線開通 (岩手県内は全線無料区間)

**凡 例**

道路名  
区画  
開通年月日

(宮古三陸間横断道路の一部区間を除き、全て国による事業であるもの)



- 洋野線上道路 7.0km R2.12.12
- 久慈北道路 7.4km R2.3.1
- 久慈南道路 5.2km R5.12.16
- 野田久慈道路 25.0km R3.12.18
- 鹿代道路 4.0km R25.10.13
- 尾花巻鹿代道路 8.0km R3.12.19
- 尾花巻道路 4.5km R26.3.2
- 日野橋道路 5.0km R3.7.10
- 岩手道路 6.2km
- 田老岩手道路 6.0km R30.3.21
- 宮古田老道路 21.0km
- 宮古道路 4.0km R22.3.21
- 山田宮古道路 14.0km R29.11.19
- 山田道路 7.9km R14.8.2
- 釜石山田道路 23.0km
- 西沢道路 3.0km R27.11.29
- 大船渡三陸道路 17.0km
- 高田道路 7.0km
- 赤松田老道路 10.0km(管内外)

## 北岩手・北三陸を横断する広域道路ネットワークの整備促進について

幹線道路ネットワークの整備は、地域間の交流・連携や地域経済の活性化はもとより、防災・救急医療・福祉・教育・観光振興など多面的な分野の発展に大きく寄与するものであり、当同盟会の会員市町村住民約63万人にとり、地域の発展に大きく寄与する社会基盤の一つであります。

かつて、江戸時代から明治の初めにかけて、沿岸部の塩と岩手県や東北内陸部の穀物などを交換するために結ばれていた交易路「塩の道」は、険しく厳しい道でありましたが、日々の暮らしを支え、いのちをつないだ道であったほか、沿岸と内陸の産業と物流はもとより歴史や文化を支え合う道でもありました。

現在、県都盛岡市以北において、内陸部の国道4号沿線から三陸沿岸北部を結ぶ路線は、国道281号などがありますが、線形不良や隘路区間のほか、急勾配・急カーブが連続する山間部を縫うように走る路網で交通の難所であり、移動に多くの時間を要する状況にあります。

盛岡市以北の市町村には、農林水産物や再生可能エネルギーなど魅力ある地域資源が数多くあるにも関わらず、農山漁村と都市部を繋ぐ社会基盤の整備の遅れが、地方創生の取組みで産地間の競争が進む中、大きな影響を与えているほか、岩手県全体を俯瞰したとき、県南地域の道路網との格差拡大が、地域経済はもとより、人口減少にも深刻な影響を与えております。

また、観光や災害対策などの面でみても、広い県土や北東北の日本海沿岸と太平洋沿岸が結ばれることは、地域間の連携が加速し、多分野において複合的な効果が生まれるものと期待されるところであります。

そうした中、令和元年2月には横浜市と県北9市町村が連携協定を結び豊かな地域資源などの強みを活かしつつ、交流循環することで北岩手の未来の砦を作り出す挑戦を進めております。

更には、岩手県北地域は近年、自然災害が猛威を振るう中、土砂流



入や河川の増水などの影響を受けやすい地形から被災リスクが高い地域でもあります。そのような状況において、令和2年12月11日に「防災・減災・国土強靱化のための5か年加速化対策」が閣議決定されたことは、大変心強いものであります。

しかしながら、東日本大震災以降、脈々と進められた復興道路及び復興支援道路が完成し、沿岸地域の交流拡大が進む中、県北の内陸と沿岸を結ぶ横断道路は依然として目が向けられない状況にあります。

そうした中、岩手県においては令和3年6月に「岩手県新広域道路交通ビジョン」「岩手県新広域道路交通計画」を策定し、これまで本同盟会が要望しておりました「北岩手・北三陸横断道路」について、高規格道路としての役割が期待されるものの、個別路線の調査に着手していない「構想路線」として「(仮称)久慈内陸道路」の名称で位置付けていただき、令和4年度から調査業務に着手していただいているところであります。

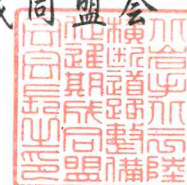
つきましては、下記事項について強く要望します。

#### 記

- 1 北岩手・北三陸を横断する広域道路ネットワークについて、早期に広域移動を支える基幹道路として整備・着工されること。
- 2 県北地域の地域経済の発展は基より、医療・教育・福祉の充実による地域間の連携を加速させるため、地域一帯の道路ネットワークの強靱化を図ること。
- 3 国民の生命・財産、国家社会を守るための「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を確実に実施するとともに、必要な予算を確保すること。また、大規模災害時の迅速な復旧のため、支援に必要な整備局、河川国道事務所の人員体制の拡充・強化を図ること。

北岩手・北三陸横断道路整備促進期成同盟会

会長 葛巻町長 鈴木重男



北岩手・北三陸横断道路整備促進期成同盟会・会員名簿

役職名	所 属 ・ 氏 名			
顧 問	岩手大学名誉教授	齋 藤 徳 美		
会 長	葛巻町長	鈴 木 重 男		
副 会 長	野田村長	小 田 祐 士	八幡平市長	佐々木 孝 弘
理 事	久慈市長	遠 藤 譲 一	岩手町長	佐々木 光 司
	普代村長	桎 屋 伸 夫	久慈市議会議長	濱 欠 明 宏
	八幡平市議会議長	工 藤 隆 一	葛巻町議会議長	鈴 木 満
	野田村議会議長	米 田 忠 一		
監 事	岩手町議会議長	武 田 茂	普代村議会議長	正 路 正 敏
会 員	盛岡市長	内 館 茂	宮古市長	山 本 正 徳
	二戸市長	藤 原 淳	滝沢市長	武 田 哲
	雫石町長	猿 子 恵 久	紫波町長	熊 谷 泉
	矢巾町長	高 橋 昌 造	岩泉町長	中 居 健 一
	軽米町長	山 本 賢 一	洋野町長	岡 本 正 善
	一戸町長	小野寺 美 登	田野畑村長	佐々木 靖
	九戸村長	晴 山 裕 康		
	久慈市議会副議長	下川原 光 昭	久慈市議会常任委員長	小 倉 利 之
	八幡平市議会副議長	井 上 辰 男	八幡平市議会常任委員長	羽 沢 寿 隆
	葛巻町議会副議長	山 崎 邦 廣	葛巻町議会常任委員長	辰 柳 敬 一
	岩手町議会副議長	田 中 二 郎	岩手町議会常任委員長	府 金 義 明
	普代村議会副議長	古 沼 和 也	普代村議会常任委員長	嵯 峨 典 行
	野田村議会副議長	米 田 徳 一 郎	野田村議会常任委員長	小野寺 光 男
	久慈市商工会議所会頭	山 王 敏 彦	八幡平市商工会長	高 橋 富 一
	葛巻町商工会長	吉 澤 信 光	岩手町商工会長	八 戸 保 彦
	普代商工会長	上神田 敬 二	野田村商工会長	小野寺 健 二
	一般社団法人岩手県医師会	本 間 博		



# 久慈内陸道 大船渡内陸道 高規格化「構想路線」に

県は災害に強い道路ネットワークの構築など今後20～30年間の整備方針をまとめた「県新広域道路交通計画」を策定した。将来的な高規格道路化を目指す「構想路線」に、久慈市―盛岡市間の「(仮称)久慈内陸道路」と大船渡市―遠野市間の「(仮称)大船渡内陸道路」の2路線を新たに位置付けた。復興事業でアクセスが向上した本県内陸と沿岸部を結ぶ横軸道路のネットワーク強化を図る。

同計画内の県広域道路ネットワーク計画策定は1993年以来28年ぶり。久慈内陸道路は国道281号、大船渡内陸道路は国道107号を中心に改良を想定する。道幅が狭い区間の解消を図るなどして重要港湾の久慈、大船渡各港

## 県が今後20～30年間の新整備方針

## ネットワーク強化図る



と内陸の主要部を結ぶ方針だ。ほかに▽宮古盛岡横断道路▽宮古市―久慈市間の「三陸北縦貫道路」▽盛岡市―雫石町間の「盛岡秋田道路」の3路線を、区間の走行速度がおおむね60km/h以上の高規格道路に設定した。

盛岡市中ノ橋通に整備する新たな盛岡バスセンターを拠す。盛岡市の中ノ橋通に整備する新たな盛岡バスセンターを拠点とする。構想路線は現時点で路線の起・終点が決まっておらず、調査を含めて整備スケジュールは未定。県道路建設課の北館康弘計画調査担当課長は「広い本県で物流や内陸と沿岸の交流を活発にする必要がある。さらなる道路の機能強化、ICTの活用などを推進していく」と計画の進展を期す。

点としたバス交通の接続強化や、道の駅を防災、災害支援の前進基地とする機能、体制強化も盛り込んだ。情報通信技術(ICT)や自動運転などを使った道路利用者の利便性向上も目指す。

県新広域道路交通計画(仮称)の策定は、1993年(平成5年)以来28年ぶり。久慈内陸道路は、国道281号、大船渡内陸道路は、国道107号を中心に改良を想定する。道幅が狭い区間の解消を図るなどして重要港湾の久慈、大船渡各港





災害に備え備蓄している水やトイレ用紙を市福園

東日本大震災では、遠野市が本県沿岸部の後方支援拠点となり、迅速な物資供給などで救援・救護に貢献した。日本海溝・千島海溝地震で大きな被害が想定される同北部の後方支援拠点に指定されている二戸市と葛巻町は、円滑な支援へ向けた準備を進めているが、課題も見える。

県は県広域防災拠点配置計画（2014年策定）に基づき、後方支援拠点に衛星携帯電話を配置。震災時の避難者のピークを参考に5万5千人が3日間過せる



## 後方支援拠点

第88部 日本・千島海溝地震への備え

食料や水、トイレなどを18年までに確保した。

支援体制もボランティアだけではマンパワー不足が懸念されるため、二戸市は民間企業と約50に上る協定を締結し、災害時の官民一体の体制を整えつつある。

さらに07年に久慈市、八戸市と大規模災害時の相互応援協定を結び、毎年会議を開催。今年は新型コロナウイルス感染症の影響で中止したが、後方支援拠点の在り方も議論する予定だった。

葛巻町は既に拠点に指定されている町総合運動公園やふれあい宿舍グリーンテニスコートに加え、新たにヘリが離着陸できる施設の整備を検討。現在、基本的に花巻空港でしか行っていない防災ヘリの燃料供給施設の機能も見込み、県北部のあらゆる災害をカバーする拠点を構築する。

しかし、後方支援拠点の運営経験が乏しいのはこれからだ。葛巻町は16年の台風10号豪雨で青森県の緊急消防援助隊約130人を受け入れたが、大規模な部隊の受け入れ経験はない。二戸市は訓練を含めて一度も運営を経験していない。

## 準備を進める二戸、葛巻

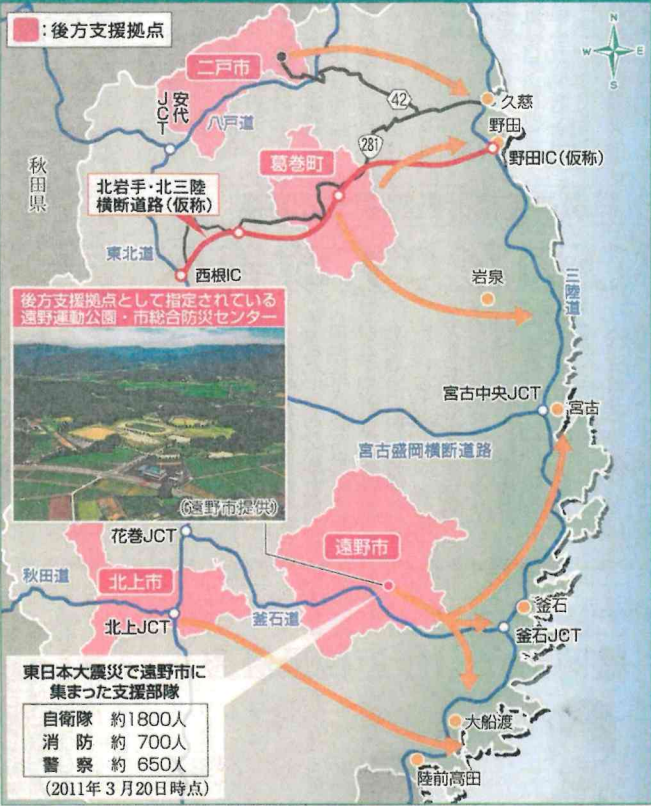
遠野市は震災前の07年に県総合防災訓練を実施したほか、08年には東北全域の自衛隊や宮城県自治体とともにみちのへA L E R T（アラート）2008を実施し、スムーズな支援につなげた。

葛巻町の鈴木重男町長は「県に理解を求め、訓練を促したい」と二戸市を持つて取り組みたい。二戸市の清水明博防災安全課長は「運営マニュアルもあるが、マニュアル通りにいかないのが常。訓練してみないと対応外のことも出てくる」と、訓練の重要性を強調する。

後方支援拠点は県が主導し、県一後方支援拠点・被災地が連携して行う必要がある。後方支援拠点と沿岸部だけの訓練では効果は半減するため、二戸市は県の動きかけを期待する。

現実的なのは、毎年県と市町村が合同で行う県総合防災訓練だが、来年度の実施地域は未定。県総合防災室の菊地真司防災危機管理担当課長は「内閣府の想定を受けて対応したい思いも強いが、県の防災訓練は各地の風水害や火山噴火など地域のさまざまなのはに對する訓練。いずれも軽視はできない」とシミュラを抱える。

## 津波被害発生時の人、物資の流れ



大雪が降り積もる国道281号 2019年12月、葛巻町葛巻

## 沿岸北部と内陸の横断道

沿岸部が津波で被災した場合、内陸の後方支援拠点から安全に素早く被災地へ物資や人材を運ぶため、道路網が重要となる。しかし、釜石道が整備され、宮古盛岡横断道路も本年度中に全線開通する宮古市以南に比べ、本県沿岸北部は内陸からのアクセスが悪い。

二戸市から久慈市へは、県道42号などで約1時間。葛巻町から

## アクセス悪く冬場危惧も

葛巻町など6市町村は2018年、県北部の道路網改善向け、野田村・八幡平市を結ぶ規格道路の建設を求める「北岩手・北三陸横断道路（北・北道路）整備促進期成同盟会」を結成。その後県央、県北地域の13市町村も加入した。同町によると、完成すれば久慈市・盛岡市間が約1時間となり、安全性も向上する。

しかし、国道281号とルートが並行し機能が重複するほか、事業費もかさむと見込まれるため、県は同道路が災害に強い道路となるよう改良を進めている。

県道路建設課の北館康弘計画調査担当課長は「災害に強い道路造りや、県全体の物流を考え、県北地域のネットワークは重要だと認識している」とするが、北・北道路の整備は「市町村ごとに検討して」「と慎重な姿勢を見せる。